

独自技術でグリップの常識を変えるゴルフ用品メーカー

株式会社 STM 大阪府大阪市

■今までにないグリップを作るため会社を設立

大阪市住吉区でゴルフ用品の製造・販売を手掛ける株式会社 STM は、元プロゴルファーである代表取締役中村成守氏がその経験を活かし、業界初となる新感覚のグリップを展開している。会社設立のきっかけは、プレーヤーの身体に唯一、直接接触する重要なパーツであるグリップを作りたいと考えたことだ。社名は「スタッドレスタイヤモデル」の頭文字で、「悪天候でも滑らないグリップを提供する」という思いが込められている。

■異硬度二色成型構造の実現で新感覚グリップが誕生

グリップは滑りにくく（捻れが少なく）フィット感が良いことが求められるが、同社はこの課題を解決するために温度調節した樹脂を2回に分けて金型に流し、異なる硬度に仕上げる独自技術「異硬度二色成型構造」（特許取得済）を生み出し、2013年8月、タイヤをモチーフにした T-series、星型の突起が特徴の S-series を発売した。

表面と内面の樹脂の間には溝がないため濡れても拭くだけで水分が残らず、硬い1層目（表面）がインパクト時の捻れや滑りの軽減に効果を発揮し、2層目（内面）の柔らかさで手に吸い付くようなフィット感に仕上がった。S-series の399個の星は、らせん状に配置され、指に引っ掛かりやすくするためグリップエンドと中心部分で大きさや配列が異なる。星型がプリントや着色ではなく、樹脂で再現しているのも業界初だという。

■高級感と機能性を併せ持つ新製品が大変好評

同社は今年7月、合成樹脂とカーボンを組み合わせた新製品 G-Rex を発売した。4本1組のアーチ型のカーボン生地を平織状に編み込むことでラバー製を超えたグリップ力を実現。合計9,568本のカーボンエンボスを360度同じパターンで配列し、つなぎ目がないため全方位への滑りに強いグ

リップとなっている（世界初の技術として特許出願中）。

発売に先駆け、3月に横浜で開催された「第56回ジャパングolfフェア2022」で初めて披露したところ、大変好評で大量に発注があった。機能面はもとより、端正な黒色がシックで高級感があるとの評判から現在も注文が相次ぎ、生産が追いつかない状態だ。硬さ3種類、リブの有無、サイズ（太さ）2種類で黒色だけでも12種類が揃う。今ではプロからの引き合いも多い同社だが、後発メーカーのため知名度がなく全く売れない時期もあったという。「差別化するには“とんでもない”アイデアと、“できない”と言わず挑戦する姿勢が必要だ」と中村代表取締役は話す。

2年前、同社は滋賀県長浜市に敷地面積300坪の自社工場「STM FACTORY BIWAKO」を建設した。新工場には成型機他、ヘッド塗装、研磨ブースまで完備され、グリップの国内一貫生産が可能となった。中村代表取締役は「現在外注している金型の製作も含め、すべての工程を自社で行えるようにしたい」と今後の展望を語る。

（八木陽子、村井 渚）



（左上から時計回りに）星型の突起と豊富なカラーバリエーションで人気の S-series、「第56回ジャパングolfフェア2022」に出展された G-Rex、G-Rex のアーチ状の表面拡大図

株式会社 STM

〒558-0041
大阪市住吉区南住吉 1-4-13
TEL: 06-6608-8001
FAX: 06-6608-8011
URL: <http://www.stmgolf.com>



中村代表取締役